



伊正建設 株式会社
代表取締役

伊藤 匡史

もともとは一般建築を手掛ける大工としてキャリアを蓄積していた伊藤社長。
ある時、宮大工との運命の出会いが訪れる——。
はじめて現場を見た時の光景は、今でも目に焼きついているようだ。
社長の想像とは違う世界が広がり、まるで心に火が灯ったようだったという。
「今後は宮大工の技術を世界にも広めたい」と語る社長。
あの時灯った心の火は、今もまだ燃え続けている。

**「宮大工との出会いが、
私の心に火を灯しました」**



代表取締役

伊藤 匡史

神社仏閣・一般木造住宅

伊正建設 株式会社

岐阜県海津市平田町今尾 4380-67
URL : <https://imasakensetu.com>



素材と道具に徹底的にこだわり、 技術を磨き続ける宮大工の職人集団

▶▶▶岐阜県海津市を拠点に、東海エリアや、滋賀、京都などを中心に、全国で神社仏閣の新築工事・改築工事を手掛ける『伊正建設』。宮大工として20年以上歩んできた伊藤社長をはじめ、腕利きの職人が揃っており、その技術を活かして一般木造住宅の新築やリフォームにも携わっている。本日は俳優の志垣太郎氏が同社を訪問し、社長に様々なお話を伺った。

—まずは伊藤社長の歩みからお聞かせ下さい。

岐阜県海津市の出身で、生家は電気工事業を手掛けていました。子どものころ、父の仕事には全く興味がなかったのですが、父のところへ出入りする大工さんが格好良く見えてきてね。近くに行くと木のいい香りがするんです。そこから大工になりたいと思うようになりました。

—それはいつごろのお話ですか。

小学校3、4年でした。そのころからものづくりが好きで、図画工作の成績は良かったんですよ(笑)。そして中学卒業後、16歳から大工の親方のもとで修業を始まりました。

—ご修業は厳しいものでしたか。

ええ。厳しかったです。親方の言うことが全て正しいという世界なので、理不尽だと思うことは多々ありましたね。ですから一緒に仕事をしてきた仲間は次々に辞めていきました。当時は10人ぐらい一緒に仕事をしてきた仲間がいましたが、今も大工を続けているのは私1人だけ。皆他の仕事に移っていきました。—途中で辞めることなく、続けてこれたのは何故でしょう。

つらいこともありましたし、辞めたいと思ったこともありました。けれども家を建てたり、お客様に喜んでいただけることが楽しかったですし、何よりもものづくりが好きで、木が大好きですからね。好きじゃないと続けられない仕事です。当社の職人も全員、私と同じ。木が大好きで、木に触れているだけで自然と笑顔が溢れています。

—最初の修業先では、何年ぐらいお勤めをされたのでしょうか。

8年です。入社してから8年経ったころ、お付き合いのあった瓦屋さんから声を掛けていただきましてね。「そんなに建物に興味があるんだったら、お寺を見てくるといい」と。当時の私には、宮大工と言われても今の時代にはそぐわない古いイメージしかありませんでした。お年寄りの職人さんたちが、手作りでコツコツ作っていらっしゃるような。けれど



も、実際に現場を見せていただいて愕然としたんですよ。

—それまでのイメージとは違っていたのですか。

はい。とても活気があって、迫力がありません。そこから宮大工の会社に移って、一気にのめり込んでいったんですよ。その当時、私は二十代半ばで若かったのですが、技術にはある程度自信がありました。同年代と比べても、技術では誰にも負けないと天狗になっていたんですよ。けれども宮大工の世界に入って、その鼻をへし折られたんですよ。いかに自分が驕っていたかということを実感して反省もしましたし、そこからは必死に頑張りましたね。

—今は宮大工の仕事を教えてくれるところも減っているのでは。

そうですね。私は神社仏閣をたくさん手掛けている会社で勉強をしたくて、奈良や京都などあちこちを回って修業をさせてもらってね。その過程で、いかに自分が井の中の蛙だったかということを実感されました。自分が思っていた以上に世界は広く、学ぶべきことはいくつもあると実感しましたね。そこでますます私の心に火が着きました。その火は未だ消えていませんし、これからも消えないと思いますね。

—職人さんらしいお言葉ですね。独立

したいと思われるようになったのはいつごろからですか。

宮大工になって10年ぐらい経ったころでしたね。周りを見渡せるようになると、自分の思うようなものを作りたいですし、自分の力を試してみたいかなという気持ちも多少はありますが、やり甲斐という部分では今までと比べものにならないほどありますね。思った通りのことができるので、毎日がとても楽しいです。

—お仕事をされる上でのこだわりを教えてください。

技術があるのは当然のことですが、難しい言葉を使わず、施主様に分かりやすくご説明させていただくこと。そして、

材料に徹底的にこだわり、丁寧に手入れをした道具を使うことですね。また、建てただけで終わるのではなく、定期点検などアフターフォローにも力を入れています。

—頼もしいですね。お話も尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ下さい。

この宮大工の技術を、海外の人たちにも広く知ってもらいたいと思うようになりました。しかし、具体的にどういったかたちでアピールしていけばいいのか分かりません。ですから、これからもっと知見を広め、より良い方法を模索していければと思っています。そして、素晴らしい宮大工の技術を世界中に発信し、後世に残していきたいですね。

(2017年12月取材)

▶▶▶誠実な対応で確かな信頼を積み重ねる

▼神社仏閣は古いものが多く、どのタイミングでどれほどの修復をすればいいのか、素人には判断が難しい。だからこそ、しっかりと説明やアドバイスしてくれる業者を選ぶことが肝要だ。『伊正建設』では修復の必要がない場合はその旨を伝え、修復が必要な場合には模型などを使用しどこを修復すべきか、何故修復が必要なのか分かりやすく説明してくれるという。工事の過程も写真や資料で見ることができると、安心して任せられる。気になる方は、まずは無料診断を依頼してみてください。

View Point

志垣 太郎 (俳優)

「この仕事は好きでなければ続かない。だから息子に後を継げと無理強いをすることはしない」と断言される伊藤社長。ご息がこの仕事を好きになり、どうしてもやりたいという気持ちになれば考えたいとおっしゃっていましたが、「そうでなければ継いでも意味がない」と。そのお言葉に熱い職人魂を感じましたね。

